

ぼくにできること

小 五

ぼくは、小学校に入るまで、初めて
することや苦手なことをするのに、と
ても時間がかかってしまったり、こわ
くてにげ出してしまったりすることが
ありました。ようち園のころは、プー
ルが苦手でした。田植えでは、ぐにや
ぐにやの田んぼに足を入れるのがこわ
くて、当日に、おなかがいなくなっ
て、休んでしまうこともありまし
た。だから、周りの人たちに分かってもら
えずに、
「なんで、あんなこともできないのか
な。」
「おかしいね。」

と笑われてしまい、悲しく思うこと
が、よくありました。

小学校に入り、やっぱり苦手なこと
がありました。ぼくはプールの時間の
シャワーがこわかったです。でも、ク
ラスのみんなは、笑ったりしないで、

「だいじょうぶだよ。」

「がんばって。」

とみんなで応えんしてくれました。で
きるようになるよ、

「すごい。」

「前より上手になったよ。」

といっしょに喜んでくれました。今ま
で、笑われるのがいやで、はずかしく
てちよう戦できなかったことも、今は
少しづつやってみようと思えるよう
になりました。

今では、字を書くことも得意になっ

て少し自信もつきました。小学校に入
学して、友達が困っていると、その友
達に声をかけたり、助けたりすること
が、当たり前に行けるようになりまし
た。学校のみんなも、同じようにして
います。

去年の夏、家族で食事に行つたと
き、床がぬれていて、すべって転んで
横になったまま動けない人がいまし
た。近くににいる人も、見ていただけ
何もできませんでした。そうしたら、
少しはなれた席のお年よりの女の
人、お店の人より早く、
「だいじょうぶですか。」

と声をかけておしぼりを持っていきま
した。ぼくは、全然知らない人なの
に、迷わずすぐに助けに行つて、すご
いと思いました。ぼくは、「どうしよ

う。」という気持ちでいっぱい、見て
いることしかできませんでした。こん
なとき、この人のようにとつきに動け
るのは、きつといつも困っている人が
いたら声をかけたり、助けたり、当た
り前にできているからだと思いまし
た。ぼくも、こんな風に困っている人
がいたら、学校だけでなくどんな場所
でも、いつでも動けるようになりたい
と思いました。

そして、ぼくも小学校のみんなに
えんしてもらって勇気が出たように、
だれかが苦手なことをがんばっている
とき、できなくても笑わないで、

「がんばって。」

「だいじょうぶだよ。」

「あきらめないで。」

と、応えんしたいと思えます。

五年生になり、六年生といっしよに田植えをしました。昔、こわかった田んぼに久しぶりに足を入れました。でも、全然こわくありませんでした。最初、うまく植えられなかった苗も、だんだん上手になって、真っ直ぐ植えられるようになりました。もっとやりたいたいと思うくらい、楽しかったです。今は、苦手だった田植えが好きになりました。

今のぼくにできること、それは、自分で「まちがっている。」「悪いことだ。」と思ったら、みんながそうしていたとしても、一人でも、絶対にしないことだと思います。そして、困っている人がいたら、どんな場所にいても、声をかけたり助けたりできる人になりたいと思います。